

連載

CAMA試験合格者の声

アセットマネジメントへの理解と 更なる普及に向けて

文=渡辺 憲吾 八千代エンジニアリング株式会社 事業統括本部国内事業部インフラマネジメント部 技術第一課 課長

text by Kengo WATANABE



私はこれまで、所属する八千代エンジニアリング株式会社において、橋梁や河川など土木施設を中心とした維持管理に携わってきました。2012年の笹子トンネル天井板崩落事故を契機としたインフラ長寿命化計画策定の流れの中で、担当する業務においては、対象とする施設の点検を行い、変状を見つけて、それに対する補修方法を提案し、概算工事費を算出のうえ、劣化予測等を織り交ぜながら今

後50年間程度の長寿命化計画を策定する、といったシンプルな業務内容が多くを占めていました。このような長寿命化計画の策定を目的とした業務においては、修繕内容と金額が並んだ計画そのものが発注者から求められたアウトプットとなりますが、その計画が果たして発注者、ひいては納税者や市民の役に立つものとなっているのか、我々は絵に描いた餅を作成しているだけなのではないか、といった

もやもやした思いがありました。

そうした中、2017年のJAAMの設立にあたり、弊社も会員として参画させていただいたことを契機として、それまで確固たる知見もなく漠然と使用していた「アセットマネジメント」といった用語について、正しい知識を学ぶ機会を得られることとなりました。

その後、私は2019年1月に実施された第3回認定アセットマネージャー国際検定試験

(CAMA試験)を受験し合格しました。試験に向けた事前対策講習会においてISO 55000シリーズを学ぶことで、アセットマネジメントは、単に施設の長寿命化計画を作成して公共事業の予算を縮減するもの、といった側面だけではなく、アセットを保有・管理する組織がアセットの価値を実現化する活動全体を指しているという概念に触れ、目から鱗が落ちると共に、これまでのもやもやが晴れる思いがしました。従前の長寿命化計画策定の取組みにあたっては「コスト」にばかり注目していましたが、アセットマネジメントの概念においてはさらに「リスク」と「パフォーマンス」が加わる。公共施設の維持管理において留意すべきこれらの事項が的確に体系化されたこのアセットマネジメントを、公共施設の維持管理に取り入れることこそが、コスト縮減のみならず、アセットの価値を向上し、組織の質をも高めていくことで、施設管理者や納税者に寄与するものであると理解することが出来ました。

一方で、公共施設の維持管理や行政組織へ本格的にアセットマネジメントを取り入れようとする動きはまだ緩やかであり、一般的に普及するにはもう少しばかり時間がかかりそうです。その要因として、アセットマネジメントの効用への理解が不足していることや、アセットマネジメントへ

の認知度がまだまだ低いことが考えられます。

ISO 55000シリーズに基づき組織が目標に向かってスパイラルアップを繰り返しながらアセットの価値を高めていくことは、公共施設を適切に運用することだけに留まらず、あたかも企業経営と同じような活動であると感じています。そのような視点に立ったとき、アセットマネジメントを導入して公共施設の効率的な維持管理に挑戦する行政の新しい取組みは、起業に似ているのではないかと思います。

わが国では欧米に比べて起業する若者が減ってきていると言われています。その要因の一つに、「事業失敗時のリスクを考えると踏み出せない」や「事業を立ち上げるための具体的な段取りや手続きが分からない」といったこともあるようです。こうしたリスクやプロセスが分からないことへの不安感は、アセットマネジメントを導入する際の障壁とも重なるところがあると思います。

起業を志す若者たちは、MBA（経営学修士）の取得などを通じて経営やビジネスの体系を学び、リアルな経営に生かして挑戦しています。それは、経営学などの知見がビジネスに役立つこと、効用が得られることを、彼らより先んじてチャレンジした者たちが実践で示しているからです。アセットマネジメントも経営学のように、様々な効用

が得られることを実践的に示すことが出来れば、普及に弾みがつくのではないかと考えています。そのためには、アセットマネジメントを理解する人材の育成や施設管理者への認知度の向上を図り、アセットマネジメントの効果や利点を分かりやすく示して、導入の障壁となっている不安感を解消していくことが重要であり、その役割を担っているのがCAMA試験合格者であると思います。特に、私のように建設コンサルタントに所属している場合、アセットを直接保有・管理をしない非アセットオーナーの立場として、業務を通じて施設管理者の行う維持管理に貢献すると共に、本質的なアセットマネジメントの導入を促していく使命があると考えています。

今後、そのような活動を通じてアセットマネジメントの普及を図ることにより、維持管理に対する取り組みを、これまでの長寿命化計画策定業務という枠を超えて、真に発注者、そして納税者の役に立つものへと昇華させていきたいと思ひますし、それに向けて自らの能力もスパイラルアップさせていかねばならないと改めて考えています。

わたなべけんご／中央大学理工学部土木工学科（現理工学部都市環境学科）1995年卒業。八千代エンジニアリング株式会社入社。道路・鉄道構造物の設計業務に従事したのち、橋梁や河川構造物等の点検・調査・補修・補強設計等の維持管理関連業務の経験を積み、2012年頃より長寿命化計画作成等をはじめとする「アセットマネジメント」にかかわる。建設コンサルタント協会 PM専門委員会 委員。